

観光振興対策特別委員会記録

開催日時 平成28年2月23日(火) 10:02~12:21

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

乾 浩之 委員長

松本 宗弘 副委員長

猪奥 美里 委員

小林 照代 委員

清水 勉 委員

岩田 国夫 委員

和田 恵治 委員

新谷 紘一 委員

欠席委員 なし

出席理事者 福井 観光局長

金剛 まちづくり推進局長 ほか、関係職員

傍聴者 2名

議 事

(1) 2月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<質疑応答>

○乾委員長 ただいまの説明、報告またはその他の事項も含めて、質疑があればご発言願います。

○清水委員 3点ありますので、順次お伺いします。

まず、大立山について、2月3日に知事の記者会見がありました。全体的に大立山についての感想の質問があり、知事から、全体的な感想として、会場の明るさ、演出方法、寒さ対策についての再検討が必要と感じたとおっしゃっています。来場者数は、5万1,000人と、先ほども報告がありました。スタッフ、市町村の関係者、その他もろもろ全てを含んだ数だと思うのですが、内容がよくわかりませんので、この確認をまずしたいと思います。

それから、記者から成功かという質問に対しては、好評であったと感じている、来年度

も継続し、来場者も伸びると予測している。さらに、予算については立山の制作費を除く同程度額を平成28年度も計上されていますが、その内容について、昨日も質問があったと思いますが、再度聞かせていただきます。

それから、県外からの宿泊者数についても質問があったと思います。プレミアム商品券、ネットクーポンの利用者により大立山期間中を含めて冬季の宿泊者は増加しているが、詳細の分析については今後行うというお話だったと思います。そして、新たなアイデアをお持ちかについては、イベントは回を重ねて進化するので、今のところ知事の口からは言えないということでした。

立山については、県庁1階、近鉄奈良駅ビルの1階に今も展示されています。

それから、ご本尊などの追加、大立山による誘客効果はどうかという記者からの問いに対して、イベントの全体を評価して、ご本尊についても検討の対象とする。また、大立山まつりによる誘客効果は奈良市内、奈良県北部にとどまっているという話をされていました。

また、開催が拙速ではなかったかという質問に対して、冬のイベントに対するイメージは以前より考えていたので補正予算という形をとって、開催日までの期間に余裕がなかったけれども、担当者が非常によく頑張ったという話をされています。

このことを踏まえ、再度、確認を行いたいのですが、1月29日から2月2日までの来場者の合計、5万1,000人についてですが、平城宮跡の非常に広大な敷地の中で、人数のカウント方法、調査の時間帯、何か所でカウントされたのか調査場所について、まずお伺いします。

○林観光プロモーション課長 人数のカウント方法などについての質問です。平城宮跡というのは、生活道の一部でもありますし、来場者がいろいろなルートから入ってこられ、なかなかカウントが難しいのですが、奈良大立山まつりにおいては、大極殿院の南門の入り口が3カ所あり、そこでカウンターによる実数把握を行っていました。

ただ、先ほど申し上げたように、いろいろなところから入ってくるということで、北からの入場者、あったかもんグランプリ会場の人だまり、そういう人だまりの状況などを目視して、観測数を総合的に勘案して算出しています。以上です。

○清水委員 まずは、定点観測が3カ所だと思います。

それから、調査について、調査方法、調査者は委託されたのですか。

○林観光プロモーション課長 県庁の自前のスタッフで委託をせずにやりました。

○清水委員 次に、同時に開催されたあったかもんグランプリについて、グランプリが高取町の高取ごんだ鍋で、準グランプリは安堵町のあんどあったか芋煮鍋だったと思いますが、市町村も連携して、5日間、いろいろな食材の提供をしていただきましたが、総販売の食数は幾らか、お教えてください。

○林観光プロモーション課長 33店舗出て、3日間で1万8,000食です。以上です。

○清水委員 平成28年度の予算に9,600万円計上されており、昨日も質問がありましたが、平成28年度予算の概要についてお知らせいただきたいと思います。

○林観光プロモーション課長 総額で9,600万円ですが、内訳としては、今年度もやった分ですが、広告費、市町村等連携協力費が約4,200万円で、会場運営、設営、演出などの費用が約5,400万円で、今回実施した1回目の祭りの反省、改善点を踏まえて、予算の使い道は今後実行委員会においても議論したいと考えています。以上です。

○清水委員 もう一点、知事の発言の中に、ご本尊云々とありましたけれども、この件についての事務担当者としての見解を伺いたいのですが、どうでしょうか。

○林観光プロモーション課長 何か新たにつくるなどそういう意味では、今回、要求している予算で、新たに大立山をつくることは予定していません。

ただ、今後、県内の企業等の協賛などで、そういったものも可能であればどんどん募っていきたいと思っていますので、状況を見ながら、今後、実行委員会において議論をしていきたいと思います。以上です。

○清水委員 次の質問に移ります。今回にあわせて、平成27年10月7日に、ネットクーポンの報道発表をされて、10月13日から240施設を対象にして販売をされていますが、先ほど確認をしますと、楽天トラベル、るるぶ、ヤフー、じゃらんネットの4つを利用されています。現状、まだ残数があると思うのですが、完売に至るのかを含め、総事業費の枠、最終的にどの程度まで広がるのかについてお教えいただきたいと思います。

○山口観光産業課長 ネットクーポンですが、委員がお述べのとおり、10月13日より4つのサイトで販売しています。

2月になった今、事業の期間が残り少なくなってきました。クーポンの原資を有効に使い切ることができるように、きめ細かに、1週間と言わず、3日、4日ごとにキャンセル分を把握しています。そして、そのキャンセル分に対して、新たなクーポンを追加配付をする形で、まだまだ諦めずに売っていく姿勢でいます。

先週までの状況は、クーポンの原資総額は2億1,000万円ですが、95%を超える

利用が既にありました。好調に推移していると思います。2月29日のチェックアウトまでまだ四、五日ありますので、努力を続けていきたいと考えています。

期間中の全ての宿泊者数などの報告は、サイト側のシステム上の都合により3月中旬になる予定ですが、クーポンの流通状況から判断しますと、4社合わせての宿泊者数は対前年比約30%を超える伸びが見込めるものと考えています。以上です。

○清水委員 今回の施策によって非常に誘客ができたという回答ですが、来年度これができるかどうか、国の補正予算もどうなるかわかりかねますけれども、奈良県全体で行き渡っていたのか、北部、西部、東部、あるいは南部、その地域性、全体のバランスは現状どの程度なのか、お教えいただきたいと思います。

○山口観光産業課長 エリアごと、施設ごとの実際の利用状況は、サイトの状況で明確には出していただけないということです。聞いているところによると、クーポンの券種が結構多岐に富んでいますので、クーポンによっては南部で使われているところもあるようですし、施設に聞いても、助かっているという声がありますので、施設数の配置がかなり北に偏っているという奈良県の状況はありますが、おおむねいろいろなエリアで使っただけのではないかと。また、夏に行ったキャッシュバックキャンペーンの結果によっても、十津川村等がかなり伸びたという状況もありますので、リピーターも期待しているところです。以上です。

○清水委員 データをきちんと収集して誘客対策に努めていただきたいと思いますので、それぞれのサイトは、個人情報も含めて出すことはなかなか渋られるかもしれませんが、できるだけ努力をしていただきたいと思います。

もう一点、奈良公園付近も含めて、Free Wi-Fiのエリア拡大が予算についていましたが、エリア拡大の場所は、どのあたりを検討しているのか、伺います。

○中西知事公室審議官（奈良公園・観光振興プロジェクト担当） 奈良公園周辺のFree Wi-Fiですが、JR奈良駅から、奈良公園の中心部までエリアを広げて、利用数はふえています。ただ、例えば、脚光を浴びてきている奈良女子大学のある東向きのきたまの奥のほうや、餅飯殿から奈良町にかけても、電波の届きにくいところも多数出ていると聞いていますので、今後は地元商店街等ともいろいろ協議をしながら、奈良公園周辺の観光ポイント、国内外の人がたくさん訪れるところで不便なところがないかということも十分認識しながら拡大を検討したいと考えています。以上です。

○清水委員 Free Wi-Fiですが、危険性の問題等が指摘されていますけれども、

この対策については、今後どう考えているのか、お聞かせいただきたいと思います。

○中西知事公室審議官（奈良公園・観光振興プロジェクト担当） できるだけたくさんの方に使っていただこうと、とりあえずは既成の、手間のかからないFreeでスタートしましたが、今、新聞紙上等にも出ていますように、犯罪に使われるおそれがあるということで、京都府も、もとの規制をかける形に戻して、利用が非常に減ったと聞いています。

奈良県は、まだ後発で、利用も右肩上がりですので、今後は、警察からもその辺については指導を受けていますので、規制についてはやはり考えていくべきだろうと考えています。

○和田委員 今の報告を聞いていますと、奈良市、奈良県北部を中心とする観光振興にかなり力を入れていただき、本当にこれはこれで重要なことだと、大変喜んでいますが、しかし、1泊2日の滞在型を考えた場合、中南和の観光振興にしっかりと力を入れなければ、素通り観光の日帰りになってしまうのではないかと常々思っています。予算の説明で、具体的にお尋ねしたい。

まず、記紀・万葉について、取り組みの内容はソフト関係が中心で、イベントやウォーキングなどが非常に目立ち、観光循環、観光産業という方面でお金を落としていただけの仕掛けが全然考えられていない。全然と言えば極端かもわからないけれども、考えておられない感じが強くします。

記紀・万葉の取り組みについては、中南和の観光の魅力を引き出していく意味でも大変重要です。国の始まり、平城京よりも前にある明日香と桜井、京都よりもさらに歴史の古い奈良県の桜井、そういう意味合いで、中南和が目立たない。魅力を引き出す。それを展開してはどうかと。これを引き出す必要があるのではないかと思います。

観光産業にお金を落とすだけでなく仕掛けについては、宿泊をどうするのか、食をどうするのか、土産グッズをどうするなど、いろいろな意味を含めて、動きをつくらなければいけないのではないかと思います。

その中で、泊まりはいろいろと考えられる、食事も考えられる、しかし、点在する施設は、これをどうしていくかが大変重要だと。そういう意味で、記紀・万葉の今までの京都を中心とすることからの転換で、金を落とす方法を考えてもらえないかを聞きたい。

次に、「平成28年度一般会計特別会計予算案の概要」、38ページの大和しかバスツアーがあり、43ページ、「記紀・万葉」交通事業者連携事業があります。中南和に点在す

る史跡、名所旧跡は散らばっており、交通の便が確かに悪いです。バスツアーなどどのような形で記紀・万葉、中南和の史跡をうまく網羅する形になっているのかをお聞きしたい。

それから、3点目、「平成28年度一般会計特別会計予算案の概要」、51ページのインバウンド対策です。奈良公園、東大寺のほうをよく行き来するのですが、外国人観光客は素通りで、2時間から3時間ほど滞在して帰る人が多いのではないかと思います。2時間から3時間で奈良県を見てすつと帰るということで、本当に観光の振興ということが言えるのかどうか、すばらしい東大寺、春日大社、平城宮跡、いろいろあります。これらをゆっくりと見て回るだけでも、半日、1日はかかると思います。そういう仕掛けをしようとするれば、しっかりとガイドが必要ではないか。例えば東大寺で約1時間ガイドで説明をし、その辺の楽しいところを見せる。春日大社には、3カ所ほど、我々では気がつかない謎めいたところの何かがあるという話です。それを皆さんに紹介をするなど、仕掛けとしていろいろあると思いますが、そのようなことも含めて、ガイドを充実して力を入れなければいけないのではないか。ガイドが充実したものになっているのかどうか。インバウンド対策で滞在時間をとっていただく、場合によっては宿泊をしていただくためにも、魅力のある奈良県を引き出すガイドが大変重要だと思うので、ガイドの人数が足りているのか状況をお教え願いたい。

それから、「平成28年度一般会計特別会計予算案の概要」、41ページにウォークルートがありました。これはこれでおもしろい試みだと思いますが、ウォークルートの設定で、便所や食事場所がきちんと丁寧にマップでもつくって表示をされることがあるのか。また、利用する便所などの設備の整備がされているのかが大変気にかかります。現状、どうお考えなのか教えていただきたい。

それから、「平成28年度一般会計特別会計予算案の概要」、119ページの総合的文化施設検討事業は非常にいいと思います。頑張ってください。文化財を活用し切らないと、奈良県の観光立県はあり得ないと思います。今までの展開は、文化財を十分に活用していなかった。ですから、ここで頑張ってください。特に施設整備は、これからどんどんやらなければいけないと思います。文化財の予算はわずかで、文化財が傷ついたら直しましょうという程度のもので、文化財そのものを引き立てるためには、文化財を置いている施設や景観が大切です。そういう意味で、この検討事業を非常に注目していますので、どうか頑張ってください。

「平成28年度一般会計特別会計予算案の概要」、123ページの全国障害者芸術・文

化祭開催準備事業です。これについては非常にユニークで、これまでの国民文化祭でもなかったことをプレでやる、そして、本番の国民文化祭でもやるという取り組みだと認識しています。これはぜひとも成功させたいところですが、とりわけ、障害者の方のすばらしい才能を出すという意味で、文化活動の全領域にわたって、特に個別では、わたぼうし音楽祭をしており、東南アジアでやるものをここでもやってもらえることや、あるいは、身体的に障害をお持ちの方々は驚くほどの音楽、演奏活動、すばらしい芸術活動を生み出しています。これらを最大ここへ盛り込んでいける祭りを催してもらいたい。いろいろな方面の障害者の代表者に参加していただいて実行委員会をつくるのかをお聞きします。以上です。

○中西ならの魅力創造課長 1つ目の記紀・万葉についてと、4番目のウォークルートについてのご質問についてお答えします。

記紀・万葉プロジェクトについては、かねてより進めていますが、いわゆるお金を落とす仕組みになっていないのではないかと。委員がおっしゃるとおり、今はどちらかというソフト事業を中心に進めてきたことは、そのとおりです。実際、お金を落とす仕組みからしますと、記紀・万葉については、観光局だけではなくて、地域振興部、土産物の関係で産業・雇用振興部、食の関係でマーケティング課、まちづくり推進局、県土マネジメント部も入っていただきながら、庁内に検討委員会を設けており、横断的にやっています。記紀・万葉について、それぞれの分野を生かしていただく形で、お願いをしているところです。

また、特に宿泊につなげたいという思いが、強くありますので、記紀・万葉ゆかりの、1泊、2泊していただくルートをつくり、実際に旅行会社にプランを持ち込んで商品化を持ちかけており、旅行商品になるという形での働きかけもしています。記紀・万葉は、今まで、講演会や冊子をつくるなど、いろいろそういうことをして、記紀・万葉のゆかりの地に興味を持ってもらい来ていただくことを中心に進めていきましたが、具体的な宿泊につながることも、今後、強力に進めていきたいと考えています。

続きまして、奈良盆地周遊型ウォークルートについてのご質問です。トイレや食事場所のお話でした。ウォークルート設定に当たっては、安心、安全に歩いていただけるということをまず最優先に、ウォークルートの設定を進めています。その中で、確かにトイレがありますので、マップなどをつくる際には、トイレもしっかり協議をしながら、場所によっては少ないところもありますので、そういうところは、地域の市町村とも連携し、どう

いうところに誘導できるかも検討しながら進めていきたいと考えています。

次に、食事場所です。ウオークルートに食事場所が余りなく、先ほどのお金を落としてもらうことからすると、弁当持参で来られるよりは、落としてもらえるところがあったほうが良いというところです。実は、去年、交通事業者連携事業の中で、山の辺の道にスポットを当てて展開したのですが、そのときに、旅行会社の旅行商品を買っていただいた方には、現地に来てグルメマップをお渡しするというのを山の辺の道でやりました。山の辺の道沿いには食事場所はないのですが、少し離れたら、おしゃれなカフェや雑貨屋など、この前若い人に紹介すると、たくさん行っていただいて好評だったと聞いています。そういうところの紹介がうまくできないかと。行政ですので、個々のお店を紹介するのはなかなか難しいのですが、ウオークルートの中で、うまくそういうところに誘導する仕掛けは考えられないかと考えています。そういう観点で、奈良盆地周遊型ウオークルートについても、紹介の方法を、今後検討していきたいと考えています。以上です。

○山口観光産業課長 大和しかバスについてお答えします。大和しかバスは奈良県ビクターズビューローが主催する着地型旅行商品のブランド名です。奈良県ビクターズビューローは平成25年度に第2種旅行業者の登録をしました。今まで県と連携しまして、うまし奈良めぐりの企画、ふだん見ることができない社寺の秘宝、秘仏の特別公開、僧侶や神職による案内付きの特別企画など、本県の持つ豊富な観光素材を最大限活用して、中和、南和にもかなりの誘客を図ってきました。これまでそのような協力関係にあって、大手旅行会社を通して消費者に販売をしてきましたが、平成28年度からは、新たに奈良県ビクターズビューローが直接消費者に対し、奈良県の魅力が詰まったビューローだからこそ企画できるといった旅行商品である大和しかバスを旅行商品として造成し、積極的な販売に取り組んでいこうとしています。

具体的には、宿泊組み込み型と、日帰りツアーバスで、宿泊はオプションとなる2種類がありますが、今、企画の段階で考えていますのは、花の名所や絶景など、季節ならではの観光スポットを組み入れて、特に委員がお述べの北和だけではなく、路線バスの少ない中和、南和にも行っていただけて、また、帰りは北部にもお立ち寄りいただけるような中・南和を広く網羅する企画を盛り込んでいきたいと考えています。県としては、効果的な情報発信などについて、奈良県ビクターズビューローと連携しながら側面支援を行う予定です。以上です。

○林観光プロモーション課長 インバウンドの取り組みの中で、特にガイドの充実につい

てのご質問です。資格を持ったガイドということで、通訳案内士がおられます。本県の場合、英語が300人弱、中国語が約30人、韓国語が約10人で、英語はそこそこの数がおられますが、中国語韓国語が少し手薄だったというところで、去年とことしで奈良公園特区を活用して、中国語韓国語の通訳案内士を増強しているところです。それプラス、民間というかボランティア的に奈良SGGクラブや、奈良YMCA善意通訳ガイド（EGG）の方がいろいろ活躍いただいているところですが、通訳ガイドとして活躍されている方のスキルアップというか、奈良の奥深い魅力をいかに伝えるかと、外国人の方の目線で説明をしていくことが必要だという考えにのっとり、2020年の東京オリンピックを目標として、外国人おもてなしプロジェクトということで、ガイドのスキルアップ研修を今年度から始めたところです。

奈良商工会議所でも通訳ガイドに関してガイドの認定のようなガイドのアワードという頂点を見きわめるといったイベント的なことをやっておられたので、そこと連携して、コンシェルジュガイドアワードということで、ことしの初めに通訳ガイド研修の中で優秀な成績をおさめられた方に出していただいて、特にスキルの高い方を検証するというのも始めたわけです。そういった取り組みを2020年の東京オリンピックに向けて今後も継続をしていき、特にガイド面での、人材育成を手厚くし、おもてなしを十分して、何度も来てみたいと、なおかつ、奈良県の奥深い魅力というのをお伝えして、奈良公園だけで終わらずに、滞在時間を延ばして県内のあちこちへ行っていただくという取り組みを進めていきたいと考えています。以上です。

○竹田文化資源活用課長 文化施策、文化資源の活用等々について、応援の言葉をいただき、ありがとうございます。

ご承知のとおり、奈良県の文化財は本当にたくさんありますけれども、文化資源という観点からは、文化財だけではなくて、今、出ています記紀・万葉をはじめとする文献資料、歴史上の人物など、幅広く捉えており、それらをより多角的な観点から総合的に施策を展開したいと考えている中で、地域の活性化や地域の誇りの醸成へとつなげていきたいと考えています。

「平成28年度一般会計特別会計予算案の概要」、121ページにも記載のとおり、平成28年度で、文化振興大綱の策定の準備をしており、その大綱の中では、文化資源の活用を大きな柱の一つに捉えたいと考えています。これまでは文化財の保存というところに重点を置いていましたが、文化財の保存、特性には十分配慮しながら、より活用という観

点で事業を進めていきたいというところで、引き続き、委員の応援をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。以上です。

○辻本文化振興課長 全国障害者芸術文化祭の関連についてお答えします。

全国障害者芸術文化祭については、障害者の芸術及び文化活動への参加を通じて、障害者の生活を豊かにするとともに、国民の障害への理解と認識を深め、障害者の自立と社会参加の促進に寄与することを目的に行うもので、平成29年度に国民文化祭を奈良県で開催することが内定しましたがけれども、厚生労働省の開催要項において、全国障害者芸術文化祭についても、原則として国民文化祭開催都道府県で行いなさいということになっており、本県での同年度での全国障害者芸術文化祭の開催が決定したところです。

国においては、国民文化祭については文化庁、全国障害者芸術文化祭については厚生労働省と、所管省庁が違うわけですがけれども、奈良県においては両イベントを一体的に開催したいと考えており、一体的な開催で、障害のない人には障害への理解と認識を深め、障害のある人には自立と社会参加を実感できる絶好の機会になるものと考えています。

具体的なイベントについては、まだこれから検討、マッチングをしていくことになると思われまます。

実行委員会に障害者の関係の方がいられているのかということですが、マスコミ関係、交通事業関係、旅行事業者に加えて、厚生委員会の委員長、障害者の関係の方3名が入っていただき、実行委員会を構成しています。以上です。

○和田委員 詳しいことは時間をとりますので、やめておきますけれども、基本的に、記紀・万葉の事業は、平城遷都1300年記念事業が終わった後の奈良県における観光振興を何に持っていこうかということで始まったものだとして理解しています。記紀・万葉の事業展開が、最近は迫力に欠けている、力強さを感じられません。観光振興で、奈良、奈良と言っているけれども、記紀・万葉の事業展開が弱いということを、率直に申し上げます。ぜひとも、奈良県の観光振興のためには、1泊2日型を考えるためには、奈良のすばらしいこのいろいろな文化財、景観、こういったものはもちろん全国に発信して魅力を知ってもらおう。そして、中南和の観光振興をしっかりとやることで、初めて奈良県で2日間の滞在型の観光振興ができるのではないかと確信しています。私は桜井に住んでいますけれども、本当に寂しい限りです。記紀・万葉ということをお大切に、これからの観光振興を頑張ってくださいと思います。

○岩田委員 大立山まつりの平成28年度予算で、9,600万円あります。来年度も続

けていくのはいいことですが、ことしの1月31日の日曜日に、あれを見て感じたことは、初めてのまつりで、予定よりも多く5万1,000人が来たという話はいいのですが、来年度、4つの立山をあのまま、また同じように使って引き回すのかということ、まず聞きたい。

それから、各市町村のいろいろな食べ物の露店がありました。孫を連れていったのですが、縁日ではないけれども、小さい子どもを連れていったときに、向こうで何をしているのかと行ってみたら、子どものものが何もないと。大人だけではなく、家族で行くということもあるので、できれば出店を来年は考えていただきたい。同じ立山が3回、回ってきましたが、来年度もまた、そうして回るのか。同じであれば、私ならはっきり言ってもう行かないです。来年も同じと聞いたら、やめておこうとなります。同じやるのであれば、予算を使ってもいいから、違う形もとれないかと思いますが、まず、同じ立山を回すのかどうか教えてください。

○林観光プロモーション課長 今年度につくりましたのは大立山4体ですけれども、割と強い素材であり、来年度も引き続いて使っていくことは考えています。

ただ、祭りの仕立てというか、全体の構成については、今年度のいろいろな反省点などを踏まえて、より一層楽しめるような企画をどんどん盛り込んでいって、地域の方たちの参画など、工夫はしていきたいと考えています。退屈させないようにしたいと思っています。以上です。

○岩田委員 今言われたように、立山はもとがかかっているから、なかなか強いものだから、また来年度も使うということですが、そのやり方、反省点などを踏まえて、いろいろな新しいことというのはよくわかるのですけれども、主体が、あの4基で、ことし行っていない人はまだ初めてなので、大変人気があったし、来年行こうかと思うが、同じものをやっているというのでは、正直言って、1回行けばもう行く気にはならないと思っているのです。やることに対しては別にいいのですけれども、その辺を考えていただきたいことと、先ほど言いましたように、家族で行かれたときの検討をお願いします。

○小林委員 2点、質問します。大立山まつりの件では、先ほどからいろいろ議論がされており、重なる部分もあるかと思いますが、お尋ねします。

1つは経済効果についてです。5万人の来場者があったと。詳しいことはわからないようですが、関係者、県内からと他府県の来場者の割合はどうなっているかということがわからないかと。

それから、新聞報道を見まして、宿泊者数が3割ふえたと思ったのですが、どのような調査、どの範囲の調査が行われたのか、増加というのが、ネットクーポンキャンペーンによるところが大きかったと思うのですが、この辺についてどうお考えかということをお尋ねします。

2つ目にお聞きしたいのは、祭りの内容です。会場の入り口で来場者に渡された大立山の楽しみ方という実行委員会のチラシがありました。それには、まず、大極殿にご挨拶しましょう、2は、願い事をお祈りしましょうということで、大立山運行の際に行燈奉納の儀式の参加費2,500円ということも案内してありました。いつから大極殿が神仏を祭る神になられたのでしょうか。とても不自然だと思います。

それから、集まった儀式奉納への参加者数はどのくらいあったのか。集められた参加費はどのように処理されたのでしょうか、お尋ねします。

次に、バスターミナルについてですけれども、先ほどご報告がありました計画概要によりますと、平成27年8月に奈良公園地区整備検討委員会に示された施設の概要が変わっていました。構造、規模、建築物の高さ、建築面積、延べ床面積及び用途の内容、どこがどのように変わったのか。複合施設の規模、書き直しで確かに縮小されていると思いますが、これで奈良公園の景観への影響はどのように改善されたとお考えになっているのか。

それから、名勝地である計画地の造成工事を、平成28年度始めると予算がついていますが、造成工事及び建築工事には文化庁の許可が必要と思いますが、この状況についてお答えください。以上です。

○林観光プロモーション課長 まず、経済効果ですけれども、冬季の宿泊客の落ち込みということで始めた事業でして、そのメインイベントが大立山まつりということで仕立てています。

当初、ネットクーポンキャンペーンとの連動ということで、トータル11億円ぐらいと試算をしていたところですが、現在、ネットクーポンキャンペーンの期間中ですので、1、2月全体の経済効果については、正確な数字が整い次第、分析を踏まえて発表をしたいと思っています。知事が定例会見で、主要ホテルの状況などを申し上げていますが、現在のところ、そういうレベルの状況です。

お祈り、云々の話ですが、今回、大立山まつりを奈良県及び観光客の方にそれぞれの無病息災をお祈りしていただくということで、方法や祈りの対象については特に限定したものではありませんし、何か特定の宗教を助長するというものではないと考えています。同

時に、各地域の伝統行祭事なども披露いただきましたけれども、今後も、特定の宗教行事に偏ることのないように、幅広くいろいろな方々、いろいろな事業、行事などに参画していただきたいと思います。

お祈りや行燈奉納の数ですけれども、正確な数字は手元にはないのですが、日平均約三、四十やっていたように思いました。実行委員会で事業費として活用するという仕立てをしています。以上です。

○山口観光産業課長 大立山まつりの開催期間中の延べ宿泊者数等の状況についてお答えします。

1月29日から2月2日の5日間ですが、宿泊者数、客室稼働率については、対前年の数字とともに、主要な10施設について県から電話で聞き取り調査を行ったものです。対前年、いわゆる平成27年も平成28年も土日が加わっていることはもちろんです。

10施設の選択ですが、統計に大きな影響を及ぼす大きな施設を中心に選んだものです。結果、対前年比29.1%増と客室稼働率13.4ポイント増という結果がありました。委員がお述べのとおり、クーポン効果ではないのかというのは、クーポン効果を全く否定するものではございませんで、クーポン効果もあったと思いますが、このクーポンの事業につきましても、オンライントラベルエージェントの情報拡散力に重きを置いており、かなりのPRをしました。大立山まつりの広報である大立山ウォーカーをつくって1、2月の冬季のイベントを1月、2月、全ての日に何か奈良県でやっていますという冬季イベントの広報はもちろんのこと、市町村の一押しイベントも全て大立山ウォーカーの中とじ、関西ウォーカーへの中とじとして入れました。また、オンライントラベルエージェントの奈良特集ページ、メールマガジン等にも大立山のPRはしましたし、この効果も決して侮れるものではないと考えています。以上です。

○中西知事公室審議官（奈良公園・観光振興プロジェクト担当）（仮称）登大路バスターミナルの整備についてご質問いただきました。

整備計画の変更について、当初案と比べて何がどう変わったのかというご質問ですが、まず、説明をする前に、委員のお話の中にもありました平成27年8月の奈良公園地区整備検討委員会において出しましたのは、今後の計画のイメージとして、たたき台として出したものでして、これを当初案という見方はしていません。この計画イメージをたたき台として、その後、有識者等による奈良公園地区整備検討委員会、専門部会、文化庁も含めて、数回にわたって協議を行い、建築物の規模や意匠、先ほど出ました景観への影響等も

考えた周辺地域との景観の調和など、さまざまな事項について意見交換をしました。そして、意見交換の内容を踏まえて計画案をまとめ、平成28年1月末に開催いたしました奈良公園地区整備検討部会において審議いただきました。整備検討部会には、アドバイザーとして文化庁の専門調査官も出席していただいています。その中で、この計画案で合意いただきましたので、今回、報告をしたものです。ですので、変更というよりも、この案が当初案と考えています。

この計画案の概要について、中身をお話ししますと、建築物の形状は、コスト削減を図りつつ、前回、たたき台と言っている部分においては2階建てと3階建てが存在していたかと思いますが、マックスではなく、コスト削減を図りつつ、県庁舎との調和も考慮して、東棟と西棟の2棟を有する2階建てとしています。あわせて、国道369号など、通りの景観に配慮し、建築物の意匠を工夫することによるスケールダウンを図るとともに、建物の周囲に積極的な緑化を行い、奈良公園の風致景観と調和のとれた計画となっています。この造成建築等については、この場所の南側3分の2は名勝奈良公園の区域に入っていますので、文化庁への現状変更という許可行為が要ります。ちなみに、この場所の造成工事については、平成27年12月11日付で既に許可をいただいています。

今後、建築工事については、平成28年5月の審議会で最終審査をしていただく予定で現在進めています。以上です。

○小林委員 大立山まつりについて、経済効果ということでは、まだまだあらゆる面からの角度で必要だと思えますし、特に、来場者数がふえた、宿泊者がふえた、調査の仕方もあると思うのですが、これだけでは経済効果を推しはかることはできないだろうと思えますので、今後も調査をされていくということですが、大極殿を神仏が集まってお参りするという祭りの内容については、納得がいかないのです。先ほど、どの宗派にも偏らないと言われましたけれども、そのことをお聞きしたのではなくて、大極殿をそういう対象にすると、意味を変えてしまっていることが非常に問題ではないかと思っています。知事は、大立山まつりについて、奈良新聞の特集版で開催に当たって紹介しており、奈良伝承の地域資源である立山を由来とした無病息災の願いを継承する象徴的な祭りを新たに創出するということを言っておられます。しかし、今回行われました状況ですと、それとは関連性が余りないのではないのでしょうか。高野山の四天王像をまねた大立山まつりの巡行だったのです、意味が違うのではないかと。

それから、先ほどから言っていますように、平城宮跡の大極殿は朝廷の正殿であって、

大極殿の意味も変えてしまったという、ここが大きな問題だと思うのです。平城宮跡は古代国家の歴史や文化を体験するところで、大立山まつりが平城宮跡が会場になったことも、非常にそぐわないのではないかと考えています。地域の習慣と願いと振興に根差した立山祭りの意味を変えて広告代理店に任せたイベントにすぎなかったと。これでは、観光業など一時的な経済効果しか期待できないのではないのでしょうか。この点についてはどのようにお考えになるのか、お尋ねします。

それから、バスターミナルですけれども、この計画案が、今回出されたのが第1次だと考えてほしいということですが、今まで、平成27年8月に奈良公園地区整備検討委員会を出されて、それについておおむね合意をいただいたと言ってこられていました。複合施設の規模については、建物が大き過ぎる、圧迫感がある、奈良公園の中心的な施設に近接するものとしてこれでよいとは言えないということは奈良公園地区整備検討委員会でも意見が出されていたものです。だから、この指摘に対して、今回、書き直しが行われたものだと思います。

しかし、これでも、施設整備に合った幾つか言っている前提条件に照らして、南都八景に選ばれた景勝地の保全や名勝奈良公園保存管理活用計画に示された基本方針の遵守があり、奈良公園保存管理活用計画では建築物の新築、改築、増築、移転、撤去の行為については、行為に伴う景観への影響について、必要に応じてシミュレーション等による事前評価を行って本質的な価値を高めるための適切な方法、範囲で実施するとあるのですけれども、さきのあらかじめ示された案についても、このことについては、ここに示されているように、前提条件にある奈良公園保存管理活用計画にある景観への影響についてのシミュレーションなどの調査をきちんと行う、事前評価を行うということについて取り上げて質問をしてきましたが、この質問については、イメージパースを示して意見を聞かれたというような答弁があったと思いますけれども、十分ではなかったと思います。

そこで、再度お聞きしますが、今回出された計画案について、奈良公園保存管理活用計画によります眺望、景観及び周辺とのつながりである広域的な景観への影響、評価、シミュレーション、イメージパースによるだけでなく、もっと丁寧に行うことが必要だと思いますが、これについてはいかがでしょうか、お尋ねします。

○林観光プロモーション課長 大極殿院地区も含めた平城宮跡をメインの会場にした考えですけれども、平城宮跡というのは、大宮通りを軸としたにぎわいの拠点の一つとして位置づけられていますし、春、秋、夏の天平祭も開催されたと。今後、歴史公園として整備

の進む場所になることに加えて、大極殿院をいろいろな意味で、1,300年前、日本の礎が築かれた平城京の中心の場所として、はじまりの奈良をまさに象徴する場所であるということです。そういう考えから、歴史的背景も踏まえて、奈良県の伝統行祭事、今回、大立山まつりだけではなくて、奈良県内の伝統行祭事を集結しているというのも一つ大きなイベントとしてやったわけですが、無病息災をお祈りをする、祭りをを行うにふさわしい場所であると考えて行ったところです。

四天王のお話をしていただいたと思うのですが、聖武天皇のころに、東大寺にもともとあったもので、ある意味、奈良県を象徴する仏像かと思います。平城京の時代、東大寺の大仏殿に存在した四天王をモチーフにすることについても、奈良県のゆかりなどを考えた上で非常に適切なものかと思っているところです。効果が一時的にとどまるのではないかという話もありましたけれども、今回、冬季の落ち込みを何とかしたいということで発想した行事ですが、奈良県は、いつ行ってもいろいろなイベントをやっているということの一つとして、年中行事として今後も定着をさせていきたいと考えています。以上です。

○中西知事公室審議官（奈良公園・観光振興プロジェクト担当） 名勝奈良公園の保存管理活用計画の中に書かれている景観等についてはシミュレーションをするべきではないかというご質問であったかと思えます。先ほどからも説明しています専門部会のメンバーの有識者の方々は、奈良公園の保存管理活用計画をつくっていただいた委員です。当然、中を熟知しておられる方でして、そこに文化庁のアドバイザーも入っていただいた上で、保存管理活用計画のシミュレーションを必ずやらなければいけないのかという部分の議論も含めて、いろいろ多角的に指導いただいたと考えています。

その中で、景観の話も、大きさの話もちろん出ていたわけですが、なぜここにこの建物が要るのかどうかという議論が、一番大きな議論になりました。建物の必要性、要するにこの場所へこの機能が要るのかどうかという中で、2つの柱である渋滞の緩和と奈良公園を知っていただくためのいろいろな情報発信機能については、奈良公園のエントランス部分には必要であろうと、そのことが奈良公園を強いては守ることにつながっていくということで、名勝奈良公園の価値を損なうのではなく、価値を高めるという判断をしていたと認識しています。

その中で、景観に含めても精いっぱいやれる範囲のことをいろいろ議論し、指導いただいてでき上がったものだと認識をしていただきたいと思います。以上です。

○小林委員 大立山まつりの件ですけれども、祭りの意義も変えて意味が変わり、平城宮

跡大極殿の意味も変えてしまったということでは、非常に残念だと思っています。

先日、知人から大立山まつりについてもっと意見を言ってほしいと言われました。どうということかと言いますと、この方がなら瑠璃絵に行ったときに、興福寺の国宝館前に観光客の青年たちがたくさん集まっておられ、その観光客にこう聞かれたそうです。奈良県では、奈良県の人、あの立山まつりには賛成なのですか、本気でいいと考えているのですかと。奈良県にはもっと独自のいいものがあるのに、もっと見せるものがあるのに恥ずかしいと語ったそうです。このような感想を持った観光客もおられたと紹介しておきたいと思います。

先ほどもご報告がありましたように、知事は、新聞の特集版で、これから毎年開催をしていくとおっしゃって、先ほどもそういう答弁もありました。地域に根づいてきた祭りの中身の意味を変えてしまうイベントではなくて、地域資源としてさきの委員会でも言いましたけれども、広陵町や御所市、橿原市で、行われている立山まつりという地域の人と結びついた地域の方の願いや風習を伝えてきた伝統的な文化行事を大切にしてきたというような意味を持つ祭りにどのようにしていくことができるのかが、非常に求められていると思いますし、地域を元気にする、それが本当の活性化につながるのではないかと思います。これは意見を申し上げておきたいと思います。

それから、(仮称)登大路ターミナルでシミュレーションの必要性をお尋ねしたのですが、専門の人の指導もいただいたし、ここにはこういう建物が必要なものと認めていただいたというお答えをいただいたわけですが、前の委員会でも言いましたけれども、景観の保全について、特にきょう出された奈良公園の基本戦略の資料の奈良公園の価値の表現とは違っています。奈良公園の価値は奈良公園の自然、資源、歴史、文化資源、公園資源及び各資源が融合した独特の風致景観であると。奈良公園の価値はここに代表される、そういう言葉だと思うのですが、これまでも景観については眺望を眺めるだけではなく、身の回りの景観、圍繞景観もあり、心で感じる景観ということもあるわけで、これは奈良市の眺望景観保全活用条例の中でそういう言葉も出てくるのですが、これまでこの計画地には何の建物もなかったのです。そこに、2階にしても3階にしても建物が建つわけですから、当然、身の回りの景観は変わってくると思うのです。そういうこともぜひ考えて、この観点を持っていただきたいと思っているのですが、こういう広域的な景観への影響が当然あるのではないかと思います。この点はどうぞお考えなのか、それだけもう一度お尋ねします。

○中西知事公室審議官（奈良公園・観光振興プロジェクト担当） 非常に難しいご質問だと思います。奈良公園の保存管理活用に関しては、何度も言いますように、奈良公園を守るという、100年先まで奈良公園を守っていこうという熱い思いでやっけていまして、景観を壊していこうという気持ちはさらさらございません。例えば、前の状態でいいますと、普通の駐車場の場所であったのですが、そこに日曜日などにずらっと車が並んでいる、あれが果たして景観上よかったのかどうかという問題もありますし、昔は、ここは師範学校という大きな建物があったところでもありましたし、要は、奈良公園の価値とは何なのかという部分については、明治がいいのか江戸がいいのか、昭和がいいのかを含めながら、100年先にはどの形がいいのか、我々が考えるのではなく、第三者の方のいろいろな意見を聞きながらやっていく姿勢に変わりはありません。

そういう意味で、バスターミナルについては、今までずっと奈良公園地区整備検討委員会を含めていろいろ議論してきた中で、最後のものといえおかしいですが、ここにこれをつくることで、何とか奈良公園内のバスの進入を少しでも減らして排ガスから奈良公園を守りたい、そして、この中には渋滞緩和のコントロール機能を持つということを行っていますように、一般車の中へ突入させないで、できるだけ郊外にある駐車場に誘導して、そこからぐるっとバスや、場合によっては歩いていただくことも考えて、何とか奈良公園内に乗り入れを減らして、木々が枯れていくようなことを阻止したいと。

もう一点は、奈良公園の中はどうしても民間地がたくさんございます。県の奈良公園だけであればもっとやりやすい方法もあるかとは思いますが、その辺も考慮しながら、広域的な景観、保護、保全については積極的に頑張っていく所存です。以上です。

○小林委員 景観ということに非常にこだわってきました。最後に、これは質問ではありませんけれども、先人の言葉を紹介して、奈良公園の風致景観を守るために、この建物がふさわしいのかどうかを再度考えていただけたらと思います。

景観こそ最も重要な文化財。景観はよいほうがよいが、ちょっと変わったって別に生死の問題ではないと多くの人が考えているのではないか。しかし、実は生死と同じくらい大切な人間として生きるにつながる文化の認識にかかわる問題である。このようにおっしゃったのは、京都大学の名誉教授をされていた西山卯三氏という都市計画家です。奈良市の国際文化観光都市審議会の委員もされた方です。

それから、もう一人、景観を壊せば観光客は減る。このように言われた、古都奈良の景観を壊すような寓居は奈良のよさを求めて訪れる観光客を減らすことは必至だ。観光が支

えとなっている奈良の活力をそぐものであると言われたのは、奈良をこよなく愛してこられた、元奈良女子大学の湯川先生です。このような言葉を言うておられますが、再度、景観を壊さないということで、計画も改めて再検討を求めておきたいと思ひます。以上です。

○猪奥委員 説明いただいた中から二、三、追加で教えていただきたいです。「平成28年度一般会計特別会計予算案の概要」、41ページの奈良県観光サービス改善委員会設置事業について、どういったものを設置して、どういったことを審議されるのかを説明いただきたいと思ひます。

次に、「平成28年度一般会計特別会計予算案の概要」、49ページの観光キャンペーン事業で、もう少し教えていただきたいのですが、大都市圏における旅行事業者メディア関係者向けのPRイベントとは何かイベントをされるということでしょうか、次のテレビ、女性雑誌、ウェブ等を連動させた広域広報を展開のところを具体的にご説明いただきたいです。県で広告料を支払って広告を載せるということではなくて、別の広報を連動して考えているのかと思ひますのですけれども、教えていただければと思ひます。

○林観光プロモーション課長 観光サービス改善委員会ですけれども、本県の課題の一つが、おもてなしの部分少し弱いというところにして、2020年の東京オリンピック、パラリンピックに向けて、おもてなし、すなわち観光サービスの向上を狙って、本県を訪れていただく観光客の満足度を高めて、観光の肝であるリピーターの増加につなげることに目的です。県内のサービス改善委員会の中身ですけれども、県の関係者、観光関連事業者で交通事業者、社寺、有識者などによって構成をしたいと思ひており、本県を訪れた観光客の県内の観光サービスに対するご意見や苦情などを収集して、それをもとにケーススタディーを行い、本県観光産業の課題、問題点を洗い出して、観光サービス改善のための方策を検討したいと思ひています。あわせて、観光カリスマ的な方などとの意見交換や先進地の視察を実施して、これらの取り組みから得られた観光サービスの改善の方策を、例えばジャーナルのようなものをつくって、観光関連事業者の方にフィードバックをし、おもてなしのレベルアップにつなげていきたいと思ひています。

次に、観光キャンペーンですけれども、雑誌、テレビ等はいわゆるペイドパブ、来ていただくあごあしを見て、その結果載せていただくというものが中心になっています。取材をしていただく費用をお支払いして記事にさせていただくということが中心になっています。以上です。

○猪奥委員 奈良県観光サービス改善委員会は、民間の事業者の課題をみんなで洗い出し

ていこうということですか。奈良県の観光の課題は、もちろん民間の事業者側に課題がたくさんあることもあると思うのですけれども、行政の課題も多くあると思いますが、その課題はここで検討されるのかどうかはわからなかったので、お願いします。

○林観光プロモーション課長 実際、観光客のいろいろな声を拾って行って、一個一個潰していくということになります。その中では、種類として、行政が取り組む上で課題というのも当然あるものですので、そういったものを含めて全体のレベルアップにつなげていくと思っています。

○猪奥委員 とても大切なことだと思いますので広くやっていただければと思いますが、構成委員の中に市町村が入っていなかったと思うのですけれども、確認をしたいと思います。

それと、広告ですけれども、取材料を支払って取材をしていただく、これは何という形態でしょうか、よくあるのでしょうか。

○林観光プロモーション課長 市町村も当然入っていただいて、県全体として取り組んでいきたいと思っています。

取材をしていただいて、ペイドパブリシティという、パブリシティプラスアルファのような、純然たる広告の中にはあるのですけれども、純然たる広告だとどうしてもかなり割高になりますので、そこは双方の利害を一致させる意味で、そういう手法が結構使われています。以上です。

○猪奥委員 委員会は市町村にももちろん入っていただいて、かなり頻度を上げてやっていただいたほうがいいと思いますし、県でやるべきこと、市町村でやるべきことは課題として洗い出して、それぞれここに集まっていたらいい、関係部局で実行していただく段取りになるということですね。頑張ってください。

次、広告ですけれども、旅行に行くとしたら、訪れる側の立場で立つと、旅行雑誌というのはそれを参考にして行くことが大変多いかと思います。奈良県がどう取り上げられているかというのは、県の担当課はどこでしていただいているのでしょうか。例えば今月号の発売されている奈良版のるるぶや、いろいろな旅行雑誌では、奈良県が、こう取り上げられていて、アメリカで売られている、韓国で売られている旅行雑誌では、奈良県というのは、今、どういうところが取り上げられて、店がどういうところが取り上げられて、ルートはこうなっている。滞在が非常に短いことが奈良県の観光の課題ですけれども、旅行に行くときに、観光雑誌を見ているときに、ここは2時間で行けます、3時間で行けます、

1時間でいいですということは雑誌には書いてありますけれども、そこに、例えばモデルルート2時間と書いてあれば、このモデルルートをやめてくださいというのを、例えばじゃらんを出している出版社まで行って情報提供をされているのかを含めてお聞かせいただきたいと思います。

○林観光プロモーション課長 観光局に、観光関係の課が3課ありますけれども、それぞれ雑誌社等とのつき合いがあり、そういったところで現状の情報把握をしているところで、委員がお述べの何か気づいた点についても、雑誌社の編集者と話をする機会があれば、そういう意見なども申し上げているところです。以上です。

○猪奥委員 業務としてどこがすべきかは決まっていないということだと思いのです。それぞれ気づいたこともあるだろうと思いますけれども、これはここがやるという役所の中の整理をつけておいていただいて、それぞれが気づいたことはここに言ったら大丈夫と担当課の職員がきちんと媒体向けに話し合いをするということにしたほうが、観光客側の立場に立つと、奈良県の情報はより一層ふえるのではないかと思いますので、庁内でご検討いただければと思います。

○乾委員長 大立山まつりの件に対してはいろいろなお話も出ていますが、来期も予算をつけて頑張ってくださいということで、喜んでいるところです。

いろいろな話の中で、昔は奈良公園の中で行われる燈花会のイベントに対しても、公園で火を使って大丈夫か、あれで人が集まるのかなど、いろいろなことがあったということを知っています。それを乗り越えて、現状は素晴らしいイベントになっています。大立山まつりも2億円のお金を使って大変でしたが、無病息災ということで4基の大立山もつくっていただき、絵に描いた餅にならないようにするためにも、職員が頑張って、来年も素晴らしい大立山まつりにしてもらいたいということを要望しておきます。

そして、「平成28年度一般会計特別会計予算案の概要」、45ページの馬見丘陵公園のことです。12月23日から3日間でしたが、イルミネーションをしていただいた。公園館の中の工夫をしてイルミネーションをやっていただいて2万7,000人の方が来ていただいたということで、素晴らしいイルミネーションでした。来期もそういうことで予算もつけていますけれども、どのようなことをするのか具体的に教えていただきたい。

○堀内まちづくり推進局次長（公園緑地課長事務取扱） 奈良公園と同じように、冬場の来館者をふやす意味で、ことしについてはあまり準備の時間もなかったのですが、食とイルミネーションという形でいろいろやらせていただきました。

ことしも規模的にはさほど大きなものではなかったけれども、先ほど委員からおっしゃっていただいたように、2万7,000人の方が来られました。その場でいろいろな課題も見えています。夜間である、暗い、もう少し規模を大きくなど、そういった観点から、今後、開催に当たってはその辺の課題も克服しながら、もっといいものをしていきたいと。具体的にはこれから、ことしやったことをベースに、もう少し拡大というか、いろいろな課題を解決しながらやっていきたいと思っています。以上です。

○乾委員長 荒井知事が就任されてからずっと馬見丘陵公園に大きな力を注ぎ込んでいただいたおかげで、すばらしい第2の公園になっていきつつありますので、引き続いて冬季のイベントとして盛り上げていただきますよう、要望しておきます。

ほかになれば、これをもちまして質疑を終わります。

なお、当委員会所属事項に係る議案が追加提案される場合には、当委員会を定例会中の3月8日火曜日の午前10時半に再度開催させていただくこととなりますので、あらかじめご了承願います。

それでは、理事者の方のご退出をお願いします。

委員の方は残っていただきますよう。

(理事者退席)

それでは、本日の委員会を受けまして、委員間討議を行いたいと思います。委員間討議もインターネット中継を行っておりますので、マイクを使って発言願います。

お手元に県外調査の概要と参考資料を配付させていただきました。参考資料はこれまでの中間まとめとして現状課題と要望等に分けて整理したものですので、参考にいただければと思います。

それでは、県外調査の概要をごらん願います。

県外調査は2月8日、9日に実施いたしました。調査事項としましては、神話にゆかりの深い宮崎県の観光振興について調査を行いました。

調査の概要としましては、宮崎県庁では、奈良県と同様に神話にゆかりの深い地として、平成24年度から記紀編さん1300年記念事業に取り組み、県、市町村、民間団体が一体となって情報発信を行い、誘客の拡大を図られています。高千穂町では、天孫降臨の地として宮崎神話の中心的存在であることから、宮崎県庁とも連携しながら観光誘致の取り組みを進められています。町内には神話ゆかりの神社が数多くあり、高千穂神社では観光客向けに、毎晩、神楽殿で夜神楽の公演が行われています。

以上のことから、観光客誘致に向けて、古事記、日本書紀にゆかりの深い地として日向神話等を活用した観光情報の発信に積極的に取り組まれている。以上、県外調査の概要といたします。

それでは、ただいまの報告を含めまして、当委員会の調査、審査事務であります記紀・万葉プロジェクト及びにぎわい交流拠点整備の推進に関することにかかわる課題について、意見交換をしていただきたいと思います。

それでは、ご発言をお願いします。

○和田委員 結構です。

○乾委員長 次に、6月定例会で行う中間報告についてですが、正副委員長に一任願えますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

それでは、そのようにさせていただきます。なお、中間報告に掲載すべき事項等があれば、ご発言願います。

それでは、中間報告案を6月定例会の委員会でお示しさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

これをもちまして、本日の委員会を終わります。長時間ご苦勞さまでございました。